

きょうほう え ず 享保の絵図

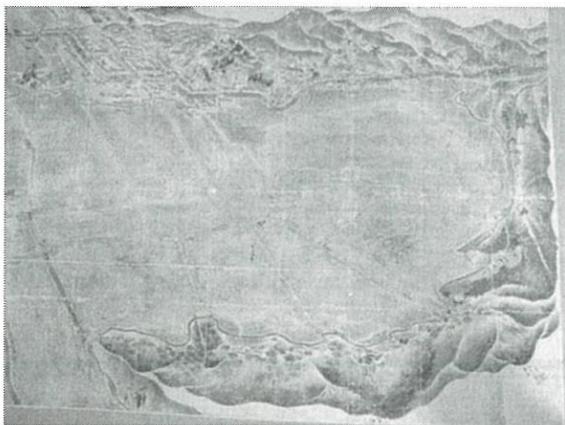
市指定有形文化財（古文書）

本絵図は大正 10 年頃、元赤湯町長の須藤富太郎氏が、同級生らと語り合っ、米沢市の古物商から買い求め、当時の赤湯尋常高等小学校に寄贈され、その後、赤湯町宝として赤湯公民館に保存されていたものです。現在は、市指定の文化財として結城豊太郎記念館に保管されています。

絵図には、窪田村の上新田（現米沢市）から中山の掛入石（現上市市）までの米沢街道の村落、道路、田畑、川、橋、神社、寺院、番所などが彩色入りで建物まで描かれており、享保 2（1717）年の米沢藩や幕府領の高畠の様子が一目で分ります。

米沢街道には、米沢藩の陣屋町として糠野目・中山の 2 つがあり、また各地に番所を置いて統制を行っていました。

絵図は 15 幅に分かれており、一幅ずつ表装されています。13 幅目にあたる南陽市の南陽村・十分一番所の絵図には、米沢街道が太い赤線で、赤湯村の市街地とその東に広がる白竜湖と大谷地が、主要道路の所在も含め黒筆で描かれています。東照寺や烏帽子岩、御殿や大湯、丹波湯の浴場も黒筆で書いています。本町、馬町などの地名や道路や川、建物や田畑の様子から、享保 2 年当時、赤湯村の市街地には 140 軒の戸数があったことが分ります。寛政 9（1797）年の絵図も残っており、2 つを比較すると地名や建物の位置の変化などが読み取れます。



【享保の絵図 赤湯村・十分一御番所図幅】

南陽市文化財保護審議委員 佐藤庄一
平成 28 年 5 月 1 日号 市報なんよう掲載